

# 第11回 留学生による 日本語作文 コンクール

入選作発表  
2004年9月



主催・大阪鶴見ロータリークラブ  
協賛・大阪日本語教育センター

## 大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金について

1989年2月、当クラブは、RI第2660地区のインターシティ・ゼネラル・フォーラム（IGF）第6組の主催クラブとなり、そのテーマに「留学生問題を考える」を選定。大阪市立大学前学長木村英一氏にコーディネーターをお願いし、関西国際学友会専務理事浦野吉太郎、大阪市立大学教授佐藤全弘の両氏を講師として「留学生をめぐる現場から」という演題の基調講演をして頂いた。

またそれに引き続き、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、関西大学、関西国際学友会日本語学校よりの男女計35名の留学生

を囲むバズセッションを13クラブ約300人のロータリアンの参加で開催して、留学生に関する認識を深めることができた。

このIFGが契機となり、同年7月の創立5周年記念事業の一環として当クラブ独自の国際交流基金の設立が決議され、クラブ内で募金を開始した。基金の事業目的は「外国人に対する日本語教育の振興による国際的相互理解の推進」と定められた。

創立10周年を迎えた1994年、基金の利息と年度内の募金を原資に、上記事業目的に添って運営を開始したものである。

## 大阪日本語教育センターの留学生による 日本語作文コンクール

当クラブは例年、鶴見区民まつりに「国際交流コーナー」で参加、地域社会とのふれあいを深めている。この催しには、第2660地区への青少年交換学生とともに大阪日本語教育センターの留学生（旧関西国際学友会日本語学校）も招待されている。

同センターと当クラブは、上記IGFを含めて特別にご縁があり、国際交流基金運営の最初の事業として、同センターの学生を対象に日本語作文コンクールを開催することになった。

このコンクールは1994年を第1回とする5年間の継続事業として始まり、1998年に5年間延長された。去年の第

10回を終えるにあたり継続の是非が議論されたが、コンクールの方法を一部見直した上で引き続き実施することとなった。

この11年間に日本語作文コンクールに応募された作品数の年次推移は、次ページの表と棒グラフに示す通りであり、第10回の応募作品の減少は、生徒数の減少によるものである。

このコンクールへの応募資格は、大阪日本語教育センターの留学生（4月末日現在）で、同センターのスピーチコンテストに準じて初級、中級、上級とクラス分けをし、日本語習得年限によるハンディキャップの解消を狙って

いる。表彰の内容は各級とも最優秀賞1名5万円、優秀賞2名2万円、審査員特別賞1名2万円となる。審査員特別賞は、非漢字国出身者に贈られる努力賞であり該当する作品があれば選出される。なお、選に漏れた応募者全員

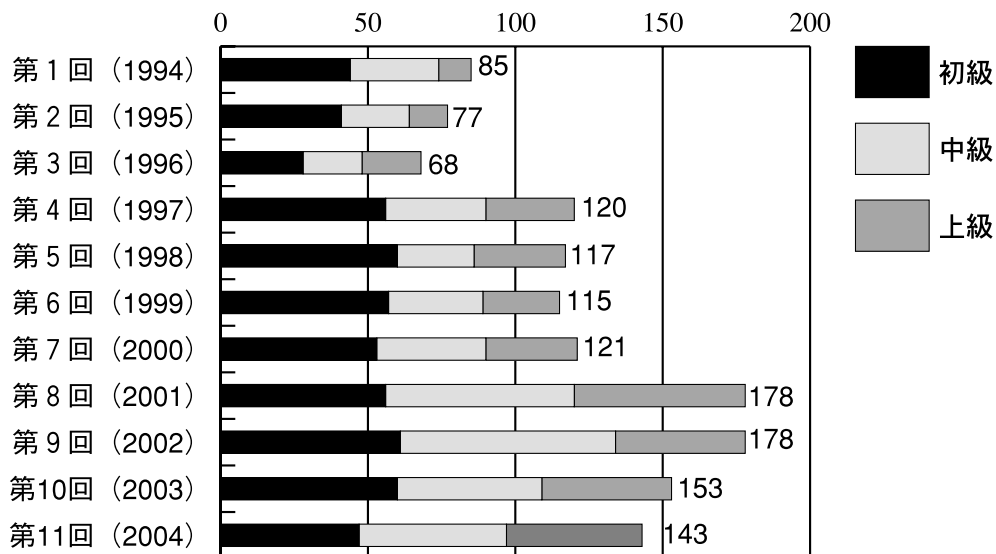
に参加賞が贈呈される。

作文のテーマは自由であるが、原稿は自作、かつ自筆・未発表のものに限られ、クラブ会報等への掲載の権利は当クラブが有している。

### 大阪日本語教育センター 留学生参加 日本語作文コンクール応募者数の推移

	初 級	中 級	上 級	総 数
第1回 (1994)	44	30	11	85
第2回 (1995)	41	23	13	77
第3回 (1996)	28	20	20	68
第4回 (1997)	56	34	30	120
第5回 (1998)	60	26	31	117
第6回 (1999)	57	32	26	115
第7回 (2000)	53	37	31	121
第8回 (2001)	56	64	58	178
第9回 (2002)	61	73	44	178
第10回 (2003)	60	49	44	153
第11回 (2004)	47	50	46	143

大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金運営委員会 (2004年7月1日)



# 第11回作文コンクール入賞者

## 初級

### 最優秀賞

馬 涛 (中国) マ タオ  
「割り箸と日本人の環境意識」

### 優秀賞

オユンビレグチンゲン (モンゴル)  
「私にとって夢というのは…」

劉 麗秋 (中国) リュウレイチュウ  
「日本は生活の楽園です」

## 中級

### 最優秀賞

ゾウ ゾウ アウン (ミャンマー)  
「私の好きな日本と  
気になる日本」

### 優秀賞

グエン・テ・クオン (ベトナム)  
「私のふるさと」

張 馳 (中国) チョウ チ  
「友 達」

## 上級

### 最優秀賞

周 艶 (中国) シュウ エン  
「ありがとう、すみません、  
愛してる」

### 優秀賞

于 晓雁 (中国) ウ ギョウガン  
「それを見た瞬間  
心を打たれました」

ホセ・アラルコン・メヒア (ペルー)  
「結婚は人生の悲劇？」

## 初級参加者 47名

葉 俊賢 (マレーシア)	林 麗麗 (中国)	趙 璉 (中国)
ケオニンブンラート (ラオス)	鞠 媛媛 (中国)	任 毅 (中国)
オユンビレグチンゲン (モンゴル)	張 艶 (中国)	許 曉芬 (台湾)
クワッスイコフィエリ (コートジボワール)	ウイリス (インドネシア)	初 峰旭 (中国)
トウンバ デイバ (コンゴ)	イトチャンソクピア (カンボジア)	尹 宣喜 (韓国)
嚴 惠浪 (韓国)	ナイチュムニット (カンボジア)	邱 克 (中国)
李 楠 (中国)	タッチツサッタヤ ピッティ (タイ)	頼 盈伶 (台湾)
江 津 (中国)	パンハミサイ スダリー (ラオス)	謝 佳真 (台湾)
馬 涛 (中国)	インタソーン コヴィライ (ラオス)	張 智軒 (台湾)
ファンカンビン (ベトナム)	ソンボンパディ プンティパッサート (ラオス)	林 翊淳 (台湾)
劉 麗秋 (中国)	パプミサイ ダリワン (ラオス)	王 強 (中国)
ブレイン (カナダ)	林 明勳 (台湾)	程 成 (中国)
周 林薇 (中国)	ブインガ プレス (コンゴ)	苗 俊福 (中国)
孫 涛 (中国)	李 淑君 (中国)	張 惠昱 (中国)
刘 佳佳 (中国)	吴 雅楠 (中国)	張 蘇 (中国)
徐 文芹 (中国)	トン センエン (マレーシア)	

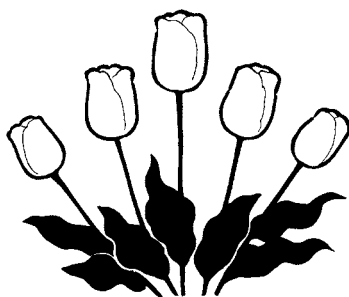
## 中級参加者 50名

ゾウゾウアウン (ミャンマー)	ウォンステイポーン ボラメート (タイ)	スリチャン ヴィライワン (ラオス)
張 馳 (中国)	李 琴智 (韓国)	ポツラマッス ダオワラッス (ラオス)
陳 瓏元 (台湾)	金 多恵 (韓国)	孫 茂盛 (中国)
王 佳蕾 (中国)	アウンコロピョー (ミャンマー)	李 仁守 (韓国)
グエン・テ・クオン (ベトナム)	ダラケオ プンチャンピン (ラオス)	プベンドラ マン シン (ネパール)
アマト・ア・カバレロ (フィリピン)	金 秀貞 (韓国)	林 丹 (中国)
黄 曉鵬 (中国)	陳 枝玲 (中国)	李 娟 (中国)
朴 乘範 (韓国)	傅 怡禎 (台湾)	陳 曉荷 (台湾)
黄 惠筠 (台湾)	任 何 (中国)	馬 琳琳 (中国)
チュンジイブヴィトラン (ベトナム)	陳 南西 (中国)	宋 鳳康 (韓国)
孫 静 (中国)	于 飛 (中国)	潘 淑珍 (台湾)
王 宇 (中国)	張 曉斌 (中国)	陸 韋銘 (中国)
唐 殿軍 (中国)	孫 艷麗 (中国)	毕 明剛 (中国)
段 宝立 (中国)	刘 华君 (中国)	倪 麗麗 (中国)
何 曉云 (中国)	ダス ミミ (インド)	郭 鉄宁 (中国)
杜 瑞 (中国)	シギ インドラ ムザキ (インドネシア)	刘 旭 (中国)
岩 鑫 (中国)	ティット ラタナ (カンボジア)	



## 上級参加者 46名

梁 爽 (中国)	馮 蕾 (中国)	叶 培勇 (中国)
宮 水晶 (中国)	李 琛 (中国)	王 穎 (中国)
朴 殊延 (韓国)	林 詩雅 (台湾)	楊 俊嶺 (中国)
江 嵐 (中国)	ハデアグスターマジャ (インドネシア)	崔 晶 (中国)
于 晓雁 (中国)	徐 彬 (中国)	丛 榛 (中国)
周 艷 (中国)	張 静雅 (中国)	王 恬婷 (台湾)
ホセ・アラルコン・メヒア (ペルー)	楊 明勇 (中国)	鄭 曉雯 (台湾)
張 智堯 (台湾)	崔 丹 (中国)	蔡 麗如 (台湾)
張 金萍 (中国)	陳 宜玫 (台湾)	テリア ジョヴァンニ (イタリア)
ワスポンパンヤサケンチャイ (タイ)	蘇 文宏 (台湾)	王 映方 (台湾)
郭 憫 (中国)	金 永紅 (中国)	崔 美淑 (中国)
張 悦 (中国)	茄 今 (中国)	江 羽倫 (台湾)
郭 小琴 (中国)	閔 晶 (中国)	李 詩雯 (台湾)
高 梦南 (中国)	秦 美英 (中国)	朴 仙花 (中国)
王 世茂 (中国)	邱 鵬達 (台湾)	
淳于思岸 (中国)	劉 易達 (台湾)	



# 割り箸と日本人の環境意識

馬 涛 (中国) マ タ オ

**最優秀賞 (初級)**

割り箸は清潔だし、便利なので、中国でも日本でも普及しています。私は中国にいる時、ほぼ毎日使っていたので全く気にしていませんでした。しかし、日本に来てから小さな割り箸は私の心を強くふるわせました。

先月友人は仕事で出張した時、私を見学させるためにある施設まで連れて行きました。昼御飯は食堂で食べることにしました。好きな食べ物を選んだ後、お箸を置いてある場所に行きました。そこにはナイフやフォークやスプーンのほか、お箸は割り箸と家庭用の普通のお箸と二種類もありました。私は何も考えずに割り箸を取って、席に座りました。食べはじめてすぐに、私の反対がわに座っていた友人は「あれ、君、割り箸だ。」と言いました。「そうですよ。何かおかしいですか。」私はとても迷って、聞きました。「それもいいけれど、環境にはよくないよ。」「環境に関係あるの。」「もちろん。割り箸を作るのに木材がいるでしょう。そうすると森林が減っていくじゃない。」と友人は説明しました。そう言えば、そうですね。しかし、私は今までこういうことは全く考

えていませんでした。自分自身を反省しながら周りの人を見ました。十人ぐらいの中で割り箸を使っていた人はただ私一人でした。すごく恥ずかしかったです。

帰る時、友人と話している中で日本人の環境保護に関するいろいろなことを聞きました。たとえば、ホテルで二日以上泊まる時、一度使った歯ブラシ、石けんなどを「捨てないでください」というメモをはり、次の日にまた使う人も増えてきているらしいです。その日に見たことと聞いたことは一生忘れないと思います。とても感動した一日でした。日本語を勉強するために日本に来た私は、言葉だけではなく、日本人のいい習慣と文化を習わなければならぬと思います。

# 私にとって夢というのは…

オユンビレグ チンゲーン (モンゴル)

## 優秀賞 (初級)

どの人も自分の将来と夢を結びつけた素敵なイメージを持っていると思う。そしてそれを実現させるため「どうすれば良いのか」と自問しながら出来るだけ失敗をしたり、それを繰り返したりしないようにして自分を進歩させていると思う。私も自分の将来が明るく幸せいっぱいだったらと思うが、その予想は年がたつと少しずつ変化する。

例えば子供の頃はパイロット、それは当時モンゴル人が初めて宇宙にいったのにあこがれたからだ。そしてスポーツ選手。今思うとそれは名誉のためだった。さらに、医者。やっとなんか自分のことだけでなく、他人の幸せが考えられるようになったのだ。

そして高校を卒業し大学に入る時がきた。私の前に重大の選択が出て来た。選択の後私は夢を変えてはならないという事がよく分かっていた。それで私は色々と考え始めた。一番に考えたのは今のモンゴルの状態だった。

現在のモンゴルは発展の面ではあまり進んでいない。重工業はただ一つで交通が良くない。人口が少ないわりに失業率が非常に高い。国民は外資導入

のもとで生活しているのが現実だ。だから私は将来どんな専門家が必要か、何を勉強すれば国のためになれるかと考えた。

そしてモンゴル国立技術大学に入学したのである。そこで勉強した時、日本の文部省の国費留学生試験に受かり、電子通信のエンジニアという専門で専門学校に勉強しにきたのである。

どんな人も自分の将来のについての想像と夢に応じ、またそれをどれぐらい理解しているかによってその人の考え方や、方針や性格も決まるものだなと思った。だから人間の夢というものとはとても大切なものであり、裕福な生活の幸福の鍵であると思う。

全ての人の願いが叶うように。



# 日本は生活の楽園です

劉 麗秋 (中国) リュウ レイチュウ

## 優秀賞 (初級)

日本の生活はらくですか。外国人の中には「日本の生活はむずかしいです。」と言う人が多いと思います。でも、よくかんがえてください。日本では着る服や食べ物や住む場所や交通などみんな便利です。日本は生活の楽園です。

日本でふつうの服は安いです。例えば中国製のシャツのねだんは中国と日本は同じぐらいです。そして、食べ物は消費期間がすぎた物を絶対売らないので安心して食べられます。ふつう家に何か物がなくなってもすぐにコンビニエンス・ストアへ買いに行けます。小さいコンビニには生活用品が何でも売っています。そのほかコピーやファクスもできます。二十四時間サービスをしていますから何時でも買い物に行くことができます。大きい町にはいろいろの国のレストランがあります。どんな料理でも食べることができます。日本で住むところはさがしやすいですよ。不動産屋へ行けば四万円ぐらいの部屋はすぐさがすことができます。家賃は銀行口座から払うことができます。たいへん便利です。また、どこかへ出かける時飛行機や新幹線や地下鉄

や電車やバスなどが利用できます。例えば電車に乗る時九時の電車はちょうど九時に着きます。ラッシュ時にはおぜいの人があるいていますが、だれもけんかをしません。エスカレーターに乗る時も人々が右側に立ち、左側をあるく人のためにあけます。いいでしょう。

日本のいいところはこれだけではありません。便利な宅急便、自動販売機、夜は明るくて安全な町、親切な日本人たち、礼儀ただしくて日本は生活の楽園になります。みなさん、日本でゆっくり住んでください。生活の楽園をいっしょに見つけましょう。

# 私の好きな日本と気になる日本

ゾウ ゾウ アウン (ミャンマー)

## 最優秀賞 (中級)

私はある日学校から自転車で帰りました。その時、私はよそ見をしながら自転車で乗っていました。それに道も狭かったので、ある場所で前から来た自転車とぶつかりました。それはすべて私の過ちでした。しかし、先に謝ったのは相手の日本人でした。私は本当に驚きました。正直に言えば、自分が育った環境では、謝ることをあまり大事にしていません。しかし、日本人は自分の過ちであろうがなかろうが、謝ります。「すみません」とか「ごめんなさい」とかいう言葉は、どんなに軽い気持ちで言ってもそれを聞いた人の怒りは多少おさまるでしょう。この礼儀はほんの小さい礼儀だけれども、これを一人一人が大切にすれば私達の世界は平和的になるでしょう。こんないい礼儀を持っている日本は私の好きな日本です。

私の人生の中でほめられることが一番多い時期は、日本にいる間です。なぜならば、日本人は他人をよくほめるからです。ほめられたら人はうれしいものです。私も同じです。日本に来て、日本人によくほめられています。そうやってほめられたことが私の力に

なったこともかなりあります。日本語が上手に話せるようになる前から何度も「日本語が上手ですね。」と言われて、前は自信がなかった日本語にどんどん自信を持つようになり、勉強も前より努力するようになりました。他人をほめるということは人間関係をよくさせる一つのことなので、とても大事だと思います。この人間らしいマナーを行っている日本も私の好きな日本です。

日本を尊敬すべきことといえば、日本人は真面目だということを忘れてはいけません。日本人はよく働きます。自分の仕事をとても大切にします。時間を固く守ります。これらが日本人の特長だということはたくさんの外国人に認められています。私はそんな日本人にいつもあこがれながら自分もそくなるように頑張っています。日本が今、世界で先進国になったのは日本人が真面目に頑張ってきたからに違いないでしょう。これこそが私に日本をすてきな国だと思わせる大きな理由でした。これも私の好きな日本です。

私が前回日本の高校に留学した時、毎日気になったことがありました。そ

れは先生と生徒の関係でした。学校の中で先生の位置は生徒よりずっと上だということは言うまでもないことです。しかし、日本の学校では先生と生徒は同級生のように見えます。先生は自分がまだ知らないことをたくさん教えてくれるだけでなく、自分の歩いて行く道も指導してくれるので心から尊敬しなければなりません。しかし、日本では学生は先生に敬意を表すどころか、ある学生は先生を友達だと思っているようです。先生と生徒の親しすぎる関係が増えてきた日本は私が気になる日本です。

私は日本の若い人達もよく気になります。日本の若い人ときたら、町をぶらぶらしている人が多いです。自分も若いですから、若い時期を楽しく過ごしていきたいという若者の気持ちは分かっていますが、これだけでは人生はいい人生になりません。若いころから自分の将来、家族の将来、それから自分の国の将来も考えないではすみません。私は日本人ではないけれども、ずっと日本にこのままりっぱな国であってほしいです。それには、今の若者達が頑張らなければなりません。若者達が今よりもっと頑張ったら、これからの日本はもっとりっぱになるに違いありません。将来のことを忘れてるように遊んでばかりいる若者が多い日本も私が気になる日本です。

私が日本にいる間、日本のいい点、悪い点をできるだけ日本人に伝えたいと思います。私が書いた「私の好きな日本と気になる日本」を読んで、日本人達が自分の国をもっとすてきな国にすることができたら、喜ばしいかぎりです。

# 私のふるさと

グエン・テ・クオン (ベトナム)

## 優秀賞 (中級)

私達は誰でも生まれ育った所があります。それがふるさとです。そこには楽しかった日々の思い出が残っています。今、故郷を離れ、何とも言いがたい物足りない気持ちを感じています。

私は戦後まもなく生まれた世代です。ベトナムは多くの人々が自国の独立をのぞみ、犠牲になっていった所です。今は、大変平和で静かな国になっていますが、長い間他国に占領されてきました。戦争が続いたため、ベトナムは他の国と比べて発展が遅れてしまいました。最近では次々と新しいビルが立ち並ぶようになりました。ベトナムの人々は平和で戦争のない暮らし、そして自分の国が豊かになることを強く望んでいます。

私はふるさとで小学校、中学校時代を過ごし、たくさんの忘れがたい思い出があります。その当時、私のふるさとはまだ生活が苦しく、食べ物も十分にありませんでした。もちろん娯楽施設もありませんでした。それでもあのころは、つなひきやたこあげなどで遊び、十分楽しんだのです。

夏休みには両親が私を両親のふるさとへ連れて行き、祖父母を訪ねた

ものです。私は大変楽しみにしていました。祖母に昔話を聞かせてもらったり、ふるさとのおいしい料理を作ってもらったりしました。祖母が昔話を何回読み聞かせてくれても、私は「もう一度読んで。」と祖母に頼んだものです。

ふるさとは「生活らしさ」が残っています。心の優しい近所の人達がいつも世話をしあいます。困った時とか病気の時とかは、みんな家に来てくれ、声をかけてくれたりします。「心」が生活の中にもあります。

しかし、私のふるさとの生活も経済の発展とともに急速に変わってきています。昔は農業だけでしたが、今は観光業が盛んです。ビルが立ち並び、レストランや娯楽施設もあります。スーパーにはたくさんのものが並んでいます。若者は夜、バーに行きます。

ベトナムの人々は以前と比べると、より現代的な生活をしているといえます。チャンスがあれば外国へ行き、多くの知識を学んだ後ベトナムへ帰ってビジネスをするチャンスをつかむこともできます。

私は日本へ来ました。ここにあるも

のは、私にとってすべて、新しく珍しく、何でもあるように思います。日本に来て一番おどろいたことは日本人が「自動システム」とともに暮らしていることです。

以前トイレに入った時のことです。水を流す所がわからずに大変困ってしまいました。大きなビルの下にはさらに広くて、きれいな地下道があり、娯楽施設もあります。日本に来て、初めて日本文化を知ることができました。日本と比べることによって、自分の国のいい所、悪い所を知ることができます。たとえば、交通規則やごみの分類や公共施設などです。まだ日本に来て三ヶ月なのでいろいろな所へ行っていませんが、これからもっと日本の人々、日本文化を知りたいです。

自分の国と違う所に住んでいても、いつもふるさとや家族を思っています。日本で生活している今、何をするか？誰のために？と考えると、ふるさとや家族のことが心に浮かびます。

しかし、世界のいろいろな所では、戦争がまだ続いています。自分の国、ふるさとに平和がなく、たくさんの人々が毎日苦しみに耐えています。すべての人々に平和が訪れて欲しいです。平和はすべてのものに変えがたいものだからです。両親、友人のいるふるさとから離れて住むことで、私は成長できると思います。しかし、いつで

もふるさとのこと、自分を思ってくれている人のことを忘れずにいたいと思います。なぜなら、ふるさはたった一つだからです。

# 友 達

張 馳 (中国) チョウ チ  
優秀賞 (中級)

「君が笑った。僕もつられて笑った。写し鏡みたいだ。君は僕のともだち…。君が怒った。僕も負けずに怒った。子供のけんかみたいだ。君は僕のともだち…。」歌がかかっている喫茶店にこしかけている私。テーブルの向こう側には私の大切な友達があります。三年ぶりの再会ですから、二人の話は山ほど…。一口コーヒーを飲んで、何年も前のことを思い出しました。

六年前に、私は大学に入り、日本語を勉強し始めました。日本語能力が高まるにしたがって、ますます日本人の友達を作りたくなってきました。たぶん、外国語を専攻する人は誰でも、自分が勉強している言葉を使う国の人と友達になりたいと思うものでしょう。しかし、国によって、教育や生活の習慣、世の中に対する見方などは、やはりちがうでしょう。相手とうまくやって行けるかどうか、正直に言うと、その時の私は、この点について本当に疑問を抱いていました。

先輩のおかげで、ようやく日本人と知り合いになるチャンスがありま

した。初めて会う時、私はどきどきして、いても立ってもいられませんでした。でも、挨拶をし、話が進むと、すぐ緊張感がなくなりました。同じ若者同士なんですから、共通の話題がたくさんありました。私はいろいろ自分の国のことを教えてあげ、向こうもたくさん日本のことを話してくれました。パーフェクトな初対面でした。

時間が流れ、二人の友情もだんだん深まってきました。その人のおかげで、ほかにもたくさんの日本人と友達になり、私も日本へ行くことを決意し、ついに日本にやってきました。彼に対する感謝の気持ちは言葉にできないほどです。

やはり世の中のみんなは、決して一人でいられるわけではないでしょう。それは「人」という字を見ればわかるでしょう。いつでも、どこでも、友達が必要です。人生というものはきっとさまざまな人間と接触し、さまざまな人と関って、いっしょに生きてゆくことなのでしょう。たとえば、生まれたばかりの時の私たちは、看護師に抱かれてこの世に生まれ、

成長するに従って、両親や先生、クラスメートや同僚、それに未来の自分の家族などいろいろの他人と出会い、お互いに影響を与え、与えられるのです。世界中のみんなはこういう循環系の中で生活しているのではありませんか。こんな膨大な数の相手の中で誰が一番大切で、誰が一番重要なのでしょうか。私の考えでは、それは友達です。友達からいろいろな影響を受けたからこそ、今の自分がいるのではありませんか。

日本に来て、日本語学校に入り、かん国やインドネシア、ミャンマーやネパールなど、さまざまな国から来た人と会い、あっという間に、新しい友達がいっぱいできました。今毎日みんなが喜んで自己の国のことを話したり、日本の面白いことや体験など話したりしています。時々一緒に遊びに行くこともあります。仲良くやっています。こんなすてきな体験は私たち留学生にどんな影響を与えてくれるのでしょうか。やはり日本へ来てよかったと思います。

# ありがとう、すみません、愛してる

周 艶 (中国) シュウ エン

最優秀賞 (上級)

六月二十日は「父の日」でした。その前に私は国にいる父に何か送ってあげようと思いましたが、何を送ったらいいのか、ずっと迷っていました。というのは、お金のことでなく、実は、一体、父は何が好きなのかわからないからです。

医者のお父は、お酒も飲めなければ、たばこも吸えません。唯一の趣味は本を読むことです。本だには、医学のことに関する本がいっぱい並んでいます。別の物には、あまり興味がなさそうです。デパートへ行くとき、いつも私と母に何か買ってくれます。自分のためにデパートに行った時はずいぶん少ない買い物でした。ですから、父にプレゼントをあげるのは本当に難しいのです。けれども、私の胸の奥に、ずっと父に話したいけれど、なんとなく、なかなか、話し出せなかった言葉が三つあります。それは「ありがとう、すみませんと愛してる」です。

「ありがとう。」お父さんの愛をありがとう。お父さんの保護をありがとう。父は私の子供時代のヒーローでした。私の記憶の中に、父はいつも私を守ってくれていました。ある日、私はぶらんこをこいでいた時、ちょっと油断して、足が滑りました。ぶらんこか

ら落ちかけたとき、そばにいた父は、言葉では言えないほど速く来て、私を助けてくれました。その速さは世界中で二人といたと思います。そのときから、私は「父がそばにいるかぎり、いつも安全です」と思うようになりました。

小学二年生の時、私は「自分で学校に通いたい」と言ったら、すぐ両親は同意しました。次の日、学校へ行く途中で新鮮な感じがある一方で、小さな私にとって、かなりきん張りました。学校に着いたとき、うしろからクラスメートに名前を呼ばれたので、ふり返るとなんと、遠いところに父の後ろ姿が見えました。なんだ、父はこっそり、私をつけて来たんです。

父は私に愛を与えたことは言うまでもないとは言うものの、私に対して、かなりきびしかったです。目上の人に乱暴なことを言ったり、勉強をなまけたりしたら、父にしかられるのはもちろん、小さな時、殴られることも少なくありませんでした。けれども、こんなきびしい父のある日の言動は、私の生きているかぎり忘れられないことです。

それは私の小学五年生のときのことです。そのとき、両親は私におこづかいを与えることがまだありませんでした。そのときクラスメートの中にある



漫画のはり紙が大人気でした。私も何とかして手に入れようと思いました。そして、ある日、母の財布から、お金をぬすんでしまいました。でも、そのお金を持って売店へ行ったら、何となく使うことができませんでした。よく考えた後、そのお金を使う勇気が出ませんでした。夜、家へ帰って、母の真剣な顔を見ました。お金が少なくなったことに気がつきました。私はうそをつきたくなかった。ポケットから、そのしわくちゃのお金を出して、母に返しました。でも心の中、怖くてたまりませんでした。「どうしよう、父に殴られちゃう。」

意外なことに、父は母に「子供をとがめないで、ぼく達のせいだ。子供はもう大きくなった、おこづかいが必要になった。そんなことを私達気がつかなかった。」と言いました。その後、私におこづかいを与えてくれるようになりました。条件は、毎月定額をくれ、必要なものを自分で買います。不要な物を買わないで、足りない時、来月のを待ちます。そのとき、私はひどく泣きました。お金をぬすんだ自分を反省しました。

もちろん、成長するにつれて、父とけんかをすることもありました。私と父の一番最近のけんかは、来日前の日でした。原因は何かもう忘れました。とにかく、ひどいけんかをしました。当時、私はやりきれなくてなりません。ですから、夜遅くまで泣きま

した。最後、父は私の部屋に入って、そばに坐って「ごめん」と言いました。私は生まれて初めて、私に「ごめん」というのをききました。「実は、あなたのことを心配しているんだ。明日から、あなたは自分で生活しなければならない。でも、今まで、そんなことがまだない。ぼくは、とても心配なんだ。でも、ぼくの態度が悪かった。ごめんなさい。」と言いました。そして、瞳の中に涙が浮かんでいました。正直に言って、私は面食らいました。私のほうこそ謝るべきです。いつも父に心配させる私のほうこそ。

次の日、父と母は飛行場まで、私を見送りに来ました。飛行機に乗る前、私と抱き合いました時、私は、「愛している」と言いたいけど、まさか、そんなこと、言えませんでした。たしかに、中国人はわりに表に表わさない国民性ですから、愛するとはあまり言えません。

いよいよ「父の日」です。大好きな父、えらい父、私はあなたに何をあげたらいいでしょう。私の愛は、あなたからもらったのとくらべて、本当にちっぽけです。とにかく、この三つの言葉をあなたに伝えたいんです。

「ありがとう、すみません、愛している」。

# それを見た瞬間心を打たれました

于 晓雁（中国）ウ ギョウガン

## 優秀賞（上級）

日本に来る前は日本に関して、いろいろ本で見たり、周りの人々から聞いたりしましたが、ぜひ日本へ留学に行ってみたいと思っていました。

そして留学生として、日本に来てもう九ヶ月になって、たくさんの人に会ったり、いろんな物ごとを経験したりして、日本の大体の印象がつかめてきました。中でも日本は経済の発達した国とされています。日本に住んでみて、この点をつくづく感じます。特に難波や日本橋や梅田へ行くと、日用品、食料品、モダンな服装から、国で見たことのないすばらしい電子製品にいたるまで、何でもそろっているのを見ると本当にびっくりしました。

けれども、いったい日本人はどのような人なのか日本に来てからわかってきました。

ふだんは留学生寮に住んでいるので、四時間の授業の外になかなか日本人と接触する機会がないのです。しかし日本に来たばかりの時は言葉ができなくて困っていた時、道行く人に頼むたびにいつも熱心に教えてもらったり、手伝ってもらったりしました。つまり、初めて日本へやって来た私を迎

えてくれたのは日本人のあたたかさでした。それゆえ、日本人がこんなにやさしくて、親切な、善良な国民だという気がしました。

時間がたつにしたがって、だんだん日本での生活になれてきました。今ではさびしくなく、楽しく充実した日々を過ごせるようになりました。

ところで、ある日の朝学校に向かう途中で前方を見ると、たくさんの人が旅行に行くような服を着て立っていました。よこに一台立派な旅行バスがまっていました。

その日はよく晴れていて、空に白い雲がかかっていました。私は歩いて近づいたところへ、人の群からある少年が自分のお母さんのようなおばさんに助けをもらって、バスに乗ろうとしているのを見かけました。さらに見たら、なんと少年が眼光にぶくて、やはり体の不自由な人だと気がつきました。

体の不自由な人にも旅行ができるなんて？二人がバスにのった後で、外の人達は静かに並んで順にバスにのりました。

この場面を見て、驚いたあまり、心

が激しく揺り動かされました。長い時間その場面を思い出し私の脳裏に今でも焼き付いています。それを考えて、いろいろの感想が自然にわき起こってきました。

日本に来て以来学校に通う電車の中でも、歩道を歩く時にも、身体障害者をしばしば見かけます。不思議なことに国土が狭いわりに身体障害者がかなり多いです。これはどういうことでしょうか。この疑問が日本に住むにつれて、わかってきました。

日本に住んでみて、体の不自由な人のために設けられた福祉施設が多く完備されています。あちらこちら歩き回ると、いたるところに体の不自由な人のための用意がしてあります。例えばエレベータの中に身体障害者向けの低くつけたボタンがあります。それに歩道に突き出た区域が敷いてあるので、盲人にとってとても便利です。また、電車や地下鉄など乗り物にのろうとする身体障害者といえば、日本はサービス業に恵まれて、行きたい所に便利に行けるようになっています。約束さえすれば駅員は絶対に約束どおりに電車に乗るのを助けに来ます。それから電車をおりる時必ずむこうの駅員はすでにその番号の車のホームにいることになっています。

人間らしさが日本で十分に表されると思います。私は日本で体現された体

の不自由な人のための細かい心遣いを称賛してたまりません。

私の国でも身体障害者が自分の家族に心から面倒をみてもらえるだけでなく、政府や一面識もない人々まで、物質上も精神上も支援がもえられます。けれども、福祉施設といえば経済があまり発達しないせいか、まだまだと思います。

私は日本における人道に感動してきました。私達は日本が技術先進国のみならず、国民の福祉を図る施設も見事にできたのを認めざるを得ません。私はこれから自分の国も福祉施設方面が日本におけるレベルに達するのをお願いしながら、ぜひ何とかしていきたいと思っています。

# 結婚は人生の悲劇？

ホセ・アラルコン・メヒア（ペルー）

優秀賞（上級）

小さい頃から、私は将来、絶対に結婚しないと思っていました。なぜなら、①女には興味がない——ただし、ゲイではありません。私はいたずらをしたり走り回ったりする、ごく普通の子どもでした。実は女性にはもてました。②女がいると問題が増える——私はいつもクラスの女子とけんかばかりしていました。しかも、腹が立つことに喧嘩をすると必ず負けるのです。③結婚をすると自由がなくなる——これは今でもときどきそう思います。④結婚をして、それが失敗だったら？——離婚するぐらいなら結婚しないほうがましです。

万が一、結婚するなら、相手は頭がよくてやさしく美しい女性でなければならないと考えていました。そんな人が自分にふさわしいかどうかなど考えたこともありません。

日本に来てから、友達もできたし、女性を紹介されたこともありました。でも、そのたび、お母さんの言葉が頭に浮かぶのです。「結婚するなら、本当に好きな人としなければきつとうまくいかないよ。」仕事ばかりで、アパートに帰ればテレビを見ながら寝る

という毎日でしたが、ある週末、ふと踊りに行きたくなりました。どうしても行かなければならないという気がしたのです。乗り気ではない友達を引きずって出かけたその店で、私は初めて妻に会いました。それから先は、あっという間でした。あれほど、結婚について否定的に考えていた私が、何も考えずに結婚をしたのです。

そして今、私は結婚をしてそろそろ三年になります。口の悪い友達がときどき私に聞きます。「いったいどうやって今まで続けてきたんだ？」私と同じように結婚している彼に、同じ質問を返すと、彼は「私は結婚してない。結婚しているのは妻だけだ。」と言います。ペルーでは、結婚を人生の最大の悲劇としてとらえることがよくあります。はたして、どこまで冗談なのか私にもよくわかりません。

実際のところ、結婚は悪いことだけではありません。いいこともあります。家に帰ったら温かいごはんが待っているし（ときどき）、アパートの部屋はいつもすっきりしているし（物が無い）、妻はやさしくしてくれ（何かほしいものがあるようです）、寒い冬

には、やさしい声で「早くおふとんに入ったら？」と言います（つまりカイロ代わり）。何より重要なのは、妻は私の一番の味方だということです。

家族が増えるということもうれしいことです。お父さんとお母さんも二人ずつになりました。初めて日本人である妻の両親にあいさつに行くとき、それは想像を絶する困難だと思いました。でも会ってみれば何も難しいことはありませんでした。彼らはいつもごちそうを用意して待っていてくれるし、学校のことを心配してくれ、ペルーの家族のことも気にかけています。春には一緒に桜を見に行ったり、夏になると彼らの家の庭でバーベキューをしたりして過ごしています。

ペルーと日本では、いろいろな違いがあります。結婚についてもそうです。ペルーで結婚しようとするれば、独身証明書を取り、健康診断を受け、市役所に一カ月ぐらい前から予約を入れておき、当日は、市長が、結婚の儀式を行います。私のペルー人の友達も日本で日本人女性と結婚しました。彼は正装でその日にのぞみましたが、彼の妻となる人はいつもの服装でした。「時間は？」と聞くと、彼女は「何時でも」と言います。彼はふしぎでたまりませんでした。「じゃあ八時でいい？」と彼女に確認して、夜の八時に市役所に向かいました。彼女は緊

張している彼を置いて、車から降りるとポストに封筒を入れ、戻ってきました。「さあ、帰ろうか。」という彼女に彼は絶句しました。聞きたいことは山のようにありましたが、うまく言葉になりません。せめて市役所の人に手渡ししなければ安心できないと彼が主張したので、彼女もうなずき、二人で市役所のドアをたたきました。出てきたのはガードマンでした。あきれているガードマンに婚姻届を手渡し、彼はやっとほっとしたそうです。

二人の人間が一緒に暮らしていると、お互いの習慣や考えの違いを痛感することがよくあります。でも、それはあって当然のことだと思います。国が違うからという理由で片づけていては、お互いに理解することはできません。私と妻は、互いにいろいろなことを学んでいます。でも、妻より私のほうが彼女から学ぶことは多いと思います。けんかもよくしますが、少しずつ回数が減ってきました。妻とけんかをするのはやめたほうがいいということも学んだことのひとつです。時間がむだになるだけですから。

私は今三一歳。まだまだ若いと思っていますが、いつ子どもを作ろうかと妻と話し合っています。そのためには大学に合格し、このコンクールに優勝しなければなりません。子どもは何人ほしいかという話もします。私が六人

ほしいというとき妻はぎょっとした顔をします（なぜだかわかりませんが）。私は七人兄弟です。家族がペルーの両親の家に集まると、とてもにぎやかです。子どももおじいさんやおばあさんもみんな集まります。子どもたちは遊んだりけんかしたり、とても楽しそうです。みんなで飲んだり食べたり、踊ったりして過ごします。私たちの家はとても温かく、愛にあふれていると感じます。私もそんな家庭を作りたいと思っています。それに、子どもを六人も作れば、少子化の問題を解決する手助けになるでしょう。

結婚してから、いろいろなことがありました。こんなことを言うと、友達に「あいつは日本に行って頭がおかしくなった」と言われるかもしれませんが、それでも言いたいのです。結婚して本当によかった。心からそう思っています。

# 講 評

審査委員長 中村 善尚

大阪日本語教育センターの御協力を得まして行っています大阪鶴見ロータリークラブの日本語作文コンクールも11回目となりました。今回は初級47名、中級50名、上級46名の計143名が参加してくれています。前回と同様、第一次審査を日本語教育センターにお願いし、二次審査を当委員会で実施しました。各委員よりの審査結果を報告して頂いたところ例年になく評価が分かれ、これはひとえに皆さんの作文の出来が拮抗していたためと考えられます。惜しくも選に漏れた方もその力の差は僅かであり、自信を持って下さい。

数年前までは台湾、中国の留学生による受賞が多数を占めていましたが、最近是非漢字圏より留学している方の活躍が目立つようになり、今回は実に4名の入賞がありました。この健闘には惜しみない拍手が送られることでしょう。

前回から各級別に字数制限が設けられました。このことはたとえ良い文章が書けても短ければ失格になりますし、字数内に自分の主張をまとめる作業を強いられ、作文をより困難な

ものにします。しかしながら、私、三年続けて審査を担当させていただいた経験から申しますと、日本語の実力が量りやすくなりました。大変ではありますが、皆さんも日本語の習得に大いに役立ったのではないかと思います。

さて、皆さんが留学されている目的は何でしょうか？単に日本語を勉強する、日本の文化を知るのであれば自国においても不可能ではありません。専門職の勉強は日本以外でも出来ます。折角、来日しているのですから、実際に日本人と交流し、日本の文化に直接触れて下さい。その経験は皆さんにとって最高のお土産になると思います。宜しくお願いします。

最後に参加して頂いた留学生と協力をして頂きました大阪日本語教育センターの先生方に感謝を申し上げます。

**第11回 日本語作文コンクール  
審査委員会**

審査委員長	中	村	善	尚
審査委員	平	林		昇
	石	川	治	均
	水	間	頼	孝
	清	水	正	憲
	田	中	英	司
	内	田	吉	穂

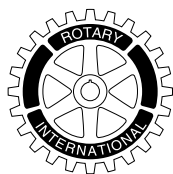
**大阪鶴見ロータリークラブ  
国際交流基金運営委員会**

(2004 ~ 2005)

委員長	中	村	善	尚
副委員長	水	間	頼	孝
委員	石	川	治	均
	清	水	正	憲
	内	田	吉	穂
	矢	尾	和	彦



禁・無断転載（転載ご希望の向きは下記にご連絡下さい）



**大阪鶴見ロータリークラブ  
国際交流基金運営委員会**

〒 534-0026 大阪府大阪市都島区網島町 9-10 太閤園内  
電話 06-6357-8171 FAX 06-6357-8011